



県内首長インタビュー③⑤

春日部市 石川 良三 市長(64歳)



10年前の新生・春日部市誕生の年に就任した石川市長。
大きな期待を寄せる新病院の建設現場を背景に。

春日部市は埼玉県の東部に位置する人口約24万人のまちです。交通機関としては、東西方向に東武野田線(アーバンパークライン)と国道16号が横断し、南北方向には東武伊勢崎線(スカイツリーライン)と、国道4号・4号バイパスが縦断、東京都心部への通勤率は20%を超えています。そのアクセスラインとなる東武伊勢崎線は、東京メトロの日比谷線、半蔵門線(東急田園都市線直通)と相互運転が行われ、首都圏における交通の要衝となっています。

■交通アクセスの利便性と子育て支援のまち

交通の便利さから、東京のベッドタウンとしても発展してきた春日部市は「地域子育て応援タウン」として、いち早く埼玉県から認定されています。石川市長は「子育ては経済的支援だけでなく、さまざまな人と人との繋

がりや、地域全体で子育てを応援していくことが重要。」と、今後も積極的に子育て支援を推進していく予定です。また、世界各地で人気を誇る「クレヨンしんちゃん」一家は、春日部市に特別住民登録をしており、市の子育て応援キャラクターとしても活躍して市民に親しまれています。

■地域の中核病院がリニューアル!

現在、春日部市役所の南隣では、平成28年夏の稼働に向けて新春日部市立病院の建設が進められています。平成25年に55周年を迎えた市立病院は、現在も地域の中核病院として「地域がん診療連携拠点病院」に指定されていますが、新病院では、県東部の公立病院としては初となるがん患者の痛みを和らげる緩和治療用の病床が10床増設される予定です。また、新生児用の特定集中治療室用にも3床が増設され、合計363の病床数を誇ります。

診療科は現在の18診療科に、新たに総合診療科、糖尿病・代謝内科、形成外科、緩和ケア科の4科が加わり、各部門の強化のために延べ床面積を現病院の1.5倍の約3万㎡に拡張される予定です。地上8階建てとなる新病院には、随所に最新の設備が施されるほか、ホスピタルアートによる癒しの空間を創出するなど、温かみのある快適な病院環境が整備されています。また、自然環境や周辺への配慮、免震構造やエネルギーの多重化などの、災害対応機能も強化されています。春日

部駅から徒歩数分の新病院は、地域の中核病院としての役割だけでなく、コンパクトシティ実現を謳う春日部市の中核としても大きな期待が寄せられています。



ユニバーサルデザインやバリアフリーが徹底された新病院。自然採光や太陽光発電などの活用でエネルギー消費を削減、現在の公園の緑地を継承して、周辺の住宅地の環境を考慮した緩衝緑地帯も設置されています。

■官学連携のプロジェクトを積極的に推進

春日部市は、高度経済成長期には9街区・約6,000戸からなる、東洋一のマンモス団地と呼ばれた「武里団地」が建設されました。しかし、最盛期には2万人以上いた居住者も現在では半減し、高齢化（高齢化率約42%）が深刻な問題となっています。また、高齢化の問題以外にも、住民同士の間関係が希薄という都市部ならではの問題も抱えています。

この状況を受け、春日部市は平成23年度に「官学連携団地活性化推進事業」をスタートさせました。この事業は、市と包括的連携協定を締結している4大学（日本工業大学、埼玉県立大学、共栄大学、聖学院大学）の学生に武里団地に居住してもらい、地域貢献活動を通じて、団地の活性化を図り、入居の促進に寄与することを目的とし、市からは家賃などの一部を助成しています。地域の文化祭やふれあい喫茶への参加、イベントの企画・運営など、住民との交流を図るとともに、人生の先輩たちからさまざまな知識を体得出来る貴重な「学びの場」となっています。この取組みは、多くのメディアでも取り上げられ、団地再生・活性化のモデルとしても注目を集めています。

また、平成26年度には、前述の4大学に近隣の東武線沿線の6大学を加えた10大学を対象に「大学生政策提案コンテスト」が開催されました。5大学14研究グループの学生が約半年間にわたって研究した政策を、公開コンペ方式による審査を経て、最優秀賞を

春日部市の概要

人口 (H27年埼玉県町(丁)字別人口調査)	237,723人
世帯数 (同上)	101,376世帯
平均年齢 (同上)	46.3歳
生産年齢人口比率 (同上)	61.6%
面積 (H26年全国都道府県市区町村別面積調)	66.00平方キロメートル
名目市内総生産 (H24年度市町村民経済計算)	4,931億1,200万円
事業所数 (H24年工業統計)	262事業所
製造品出荷額等 (同上)	1,464億8,679万円
事業所数 (H24年経済センサス)	7,937事業所



武里団地で開かれる夏の「けやき祭り」を手作り神輿や模擬店などで盛り上げます。また、定期的に行われる「ふれあい喫茶」は住民との貴重なコミュニケーションの場となっています。



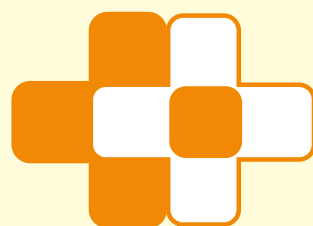
受賞した「春日部市をイクメンのまちに」が、平成27年度には市で事業化される予定です。

■春日部市ならではのシティセールスを展開

春日部市では、まちに関わる多くの方々のご協力を得て策定した「春日部市シティセールス戦略プラン（戦略指針、アクションプラン）」に基づき、シティセールスを推進しています。一連の活動を通じて、まずは市民の皆さんが春日部というまちのことを「わたしたちのまち」と誇りを持って認識し共感できる地域を、そして延いては、「行ってみたい、住んでみたい」と市外の人からも「選ばれるまち」となることを目指しています。

平成27年度から「ホッとする住みごこち+1（プラスワン）」を合言葉に、市内外へ向けての本格的な取組みが始まっています。春日部での毎日がもっと楽しく、面白いものになるように、まち全体で一体感を持つて取り組もうとしています。

春日部市は、本年10月1日に旧春日部市と旧庄和町との合併、新市施行から10周年を迎えます。さまざま変化を迎える中、さらなる発展を目指し「住民にやさしいまちづくり」を推進していきます。



+1のあるまち
kasukabe

「まちの好きなところ（+1）」を共有することで、まちをもっと好きになるように、という想いを込めたマークです。